

平成 26 年 9 月 9 日

## 女子体操競技情報 21 号

(公財) 日本体操協会  
リオデジャネイロ強化委員会女子体操競技強化本部  
審判委員会女子体操競技審判部

2014 年 8 月 5 日付けで国際体操連盟より 2013FIG 採点規則の修正が届きました。

条項内容の補足説明・解釈変更がありましたので、女子体操競技情報 21 号としてここに通知いたします。

この情報の適用は、女子強化本部と協議により、**2014 年 11 月の全日本体操競技団体選手権大会より国内競技会で適用**といたします。

地域委員会、ブロック担当者会議のご意見を賜り、国民体育大会でのこの情報は適用いたしません。

8 月 9 日付けで通達しました「2013 体操競技女子採点規則修正の通知（2014 年 1 月版）追加」は、**全日本体操競技団体選手権大会前までの適用**といたします。

国際体操連盟の情報通達において、とくに重要な内容がある場合は女子強化本部と協議の上、国内適用を検討しております。本年は短い期間での修正、情報の通達となりました。

日本の選手の競技力向上のため、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

修正内容を確認のうえ、対応をお願い申し上げます。

【国際体操連盟 体操競技情報より翻訳】

国際体操連盟より各連盟各位

これらの技術的な指示/説明は、審判過程における一貫性と理解を向上させるために提示されています。我々は、皆さんがこの情報を皆さんの女子技術委員とコーチ・審判員に伝達されるようお願いいたします。

1. 第8章 – Eスコアに関する規則

8.3 着地での欠点

- ・選手がVTやUB、BBの終末技の着地後に、直ちに前方宙返りをしてから立った。  
⇒着地後の前方宙返りの実施は、「落下」とみなす（-1.00）

例：

VT：前転とび + 前方かかえ込み宙返り、着地 + 着地後に前方かかえ込み宙返り（減点-1.00）

UB：前方かかえ込み宙返り下り、着地 + 前方かかえ込み宙返り（減点-1.00）

BB：前方伸身宙返り、着地 + 前方かかえ込み宙返り（減点-1.00）

参考映像：<http://www.youtube.com/watch?v=Cx90nVjRFZA&feature=youtu.be>

2. 第9章 – 技術の承認

9.1.1 技の承認

– 2回宙返り

- ・後方伸身2回宙返り：もし選手が2回目の宙返りで回転力を助けるために腿を掴んだ場合、後方屈身2回宙返りとみなす。

参考映像：<http://www.youtube.com/watch?v=vNR3e0PymkU&feature=youtu.be>

3. 第10章 – 跳馬

10.2 助走

競技直前の演技台上での練習の助走の回数について：

- ・例1 – 助走して前転とびを行った直後に跳躍台に立って宙返りを行う。  
⇒2回の練習とみなす。
- ・例2 – 助走して跳躍台にステップやジャンプで上がり、宙返りを行う。  
⇒1回の練習とみなす。
- ・例3 – 助走路上のいかなる助走も1回の練習とみなす。（ただし、ウォームアップの正式な最初の試みの前に跳躍台と反対方向に助走路を走るのを除く）  
※選手らは、お互いのウォームアップを邪魔しない事が重要である。

練習の助走の回数違反は下記を適用する

ウォームアップの違反 – 「はなはだしい練習時間の超過（警告後）」 – 0.30

「内容のない助走」と判断される基準：

- ・加速がある助走となった場合。 1, 2歩では、適用しない。

#### 4. 第12章 - 平均台

解説：後方伸身宙返り（E/D）

- ・「身体の姿勢」の減点は適用されない。「伸身姿勢を保てない」の減点は適用される。

#### 5. 第13章 - ゆか

##### 13.6 種目特有な実施減点（E 審判団）

— タンブリングの準備：

説明：振り付けは音楽と調和していなくてはならない。

下記の場合は、足の調節とみなす：

- ・意味のあるはっきりとした身体の動きを伴っていない、両腕の動作のみの単純なステップや走り。
- ・必要のない前や後ろのステップ（コーナーやタンブリング前の位置に単に行くためだけの）

— 技の前の停止（1秒を超える）

選手が腕の動きを伴うまたは伴わないで1秒以上停止している場合

（腕の動きが音楽のスタイルに関連して表現力豊かな動きを示さないとき、「技の前の停止」を適用する。 停止姿勢は片足または両足でとどまっていることをいう。  
（踵が上がっても下がっても）

— 技の配分：

- ・演技が始まって直ちにタンブリングに入る

解説：選手はコーナーで、またはコーナーへ向かって、多方向への移動を伴った振り付けをしなければならない。

「アクロラインのあとに同じ対角線で次のアクロラインを行う」について

- ・「アクロラインのあとに同じ対角線で次のアクロラインを行う」は、実施した場合、その都度適用しなければならない。
- ・2つのアクロラインの間の振り付けは、技を含むことができる。しかし、技のみでは振り付けとしては認められない。技は振り付けに含まれていなければならない。  
もし、2つのアクロラインの間に十分な振り付けがあったとしても、1つ目のアクロラインの進行方向と 同じ方向へ動き（振り付け）を続けるならば、次のアクロラインに対して減点が適用される。

注：もし、アクロラインで転倒し、その後、次のアクロラインを実施する場合

下記に対しての減点は、適用されない：

- ・腕の動きまたは大きな身体の動きがない単純なステップやランニングを使って、コーナーにつなげる

- ・アクロラインのあとに同じ対角線で次のアクロラインを行う
- ・技の前の停止
- ・アクロバット系の前に1回より多く両足（バレエの6番）で立つ

転倒後、選手が他のコーナーへ移動してタンブリングを開始する場合、「アクロラインのあとに同じ対角線で次のアクロラインを行う」を除く上記の全ての減点を適用する。

## 6. 技の評価

UB： 2.104 と 2.105

- ・もし膝を曲げて実施しても難度（A）として承認する。ただし、膝の曲がりの減点を適用する。

FX：2.206 浮脚や手が床に触れないで、片脚を後ろに振り上げた前後開脚立ち経過1回ターン（イリュージョン）

- ・フロアに手をついた時点でターンは終了する。  
この技の承認に踵が落ちた角度は関わらない。ターン完了は、肩と腰の向き、浮き脚の位置によって決定される。

## 7. ヘルプデスクの変更・削除

P27 ページ

輪とび（リープ）／脚交差した前後開脚とびからの輪（ひねりを伴う/伴わない）

追加： D 審判団：後ろ脚の位置（膝の曲がり  $>135^\circ$ ） - 1つ下の難度  
E 審判団：後ろ脚の曲げ不十分（ $>90^\circ$ ） -0.10

P71 ページ

タンブリングの準備

（赤字部分削除）

「注：」2行目～

- ・アクロバット系の前に1回より多く両足（バレエの6番）で立つ：各0.10

注：振り付けが終わった最後の瞬間に両足たちの場合、バレエの6番とみなす。

~~もし両足立ち（バレエの6番）ではない場合でも、2つ目の足を1つ目の足に近づけた場合 - コーナーにつなげているとみなす。~~

（赤字部分削除）

黄色のボックスの2行目

- ・“コーナー”へつなげる（腕の動きのない単純なステップ）+ バレエの6番で立つ  
+ タンブリングに入る前の足の調節 ~~（2つ目の足を1つ目の足に近づける）。~~

【日本語版ヘルプデスクの訂正】

P71 ページ

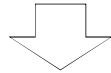
一技の配分

(赤字部分訂正)

- ・アクロラインの後に折り返して同じ対角線で次のアクロラインを行う、またはアクロラインの間に明確な振り付けがない

注2：1つ目のアクロラインと同じ方角に振り付けを行うことは、減点の対象に

はならない。



1つ目のアクロラインと同じ**方向**に振り付けを行うことは、減点の対象になる。